

## 事例 4 系統性を踏まえた指導の事例

- 学年 第6学年
- 単元名 「ピーン・クールン！」伸膝台上前転で目指せ金メダル！（跳び箱運動）
- 事例のポイント
  - ①学年の系統性を踏まえ、積み重ねを意識した指導計画を立てる。
  - ②技の系統性を踏まえ、運動が苦手な児童が技能を身に付けるための場の工夫をする。
  - ③モデリングや自己の課題発見を促すために、ICT端末を効果的に活用する。

### 1 単元名 「ピーン・クールン！」伸膝台上前転で目指せ金メダル！（跳び箱運動）

#### 2 運動の特性

##### (1) 一般的特性

繰り返し系や回転系の技で構成された運動の中から自己の能力に適した技に挑戦し、それを達成したときに楽しさや喜びを味わうことができ、空間での身体支配能力を高めることができる運動である。

##### (2) 児童から見た特性

跳び箱運動の楽しさや喜びを感じる要因	跳び箱運動を遠ざける要因
<ul style="list-style-type: none"><li>・新しい技や、できる技がより上手にできるようになったとき。</li><li>・友達と教え合い、励まし合って練習できたとき。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・練習しても上達しないとき。</li><li>・失敗したときの痛さや跳び箱の高さなどから恐怖感や抵抗感を抱いたとき。</li></ul>

#### 3 児童の実態（略）

#### 4 教師の指導観

##### (1) 知識及び技能

多くの児童が「台上前転」ができるという実態を踏まえ、本単元では「はね跳び」につながる技の系統性を鑑み、「伸膝台上前転」を中心に学習を進めていく。

「伸膝台上前転」ができるようになるポイントは「踏切から着手までの動き」にあると考えられる。ポイントは、「両足で踏み切り、膝を伸ばして腰を引き上げ、跳び箱手前に着手をすること」であり、「台上前転との違い」や「膝を伸ばすタイミング」を単元前半の中心発問とし、ポイントを焦点化して指導していく。さらに、技を美しく雄大にするために、つま先を伸ばすことや、腰を高く保つ（腰角を開く）ことも、技能上位児童の動きから気付けるようにしていきたい。

技の行い方におけるポイントは、「踏切直後に膝を伸ばすこと」「腰を高く保つこと」に絞り、全体で知識として共有する。実際に体を動かす中で、体の感覚と知識をつなげることを心がけ、「膝を伸ばすために太ももに力をギュッと入れる」といった個々の運動のこつも全体で共有し、理解を深めたい。

器械運動は「できる」、「できない」がはっきりとした運動であることから、個人差に配慮をし、児童一人一人の「できる（伸びる）」に焦点を当てることも忘れずに、全員が「できる（伸びる）」楽しさや喜びを味わえるようにしたい。そのために、単元前半で習得した内容を単元後半に活用できるような学習過程の工夫や、運動が苦手な児童も課題を解決できるような場の工夫を行っていききたい。

##### (2) 思考力、判断力、表現力等

中学年までに、課題を見付け、解決のための活動を選ぶことを行ってきた。高学年ではそれに加え、練習の場や段階を選び、考えたことを他者に伝える活動を行っていく。

単元前半で知識として習得した技のポイント（①踏切直後に膝を伸ばすこと②腰を高く保つこと）を課題として提示し、自己の動きを見ながらどちらが課題なのかを見付けていく。そして、課題に応じた活動の場を設定することで、自分はどの段階なのかを把握できるようにしていく。課題や成果を明確に捉えるために、毎時間動きを記録する時間を設け、記録を蓄積したり、課題を解決した児童の姿を映像でモデリングしたりし、ICT端末を効果的に活用していく。また、課題が適切に選べない児童がいることも想定し、本単元では課題解決に関わる時間を3時間設定する。教師が児童の考えを尊重しながらも、積極的に児童に介入

し、「自己に適した課題」に向かえるよう助言していく。

考えたことを他者に伝えるためには、伝え方の型を示し、伝え方を共有する。その後、よい伝え合いができていくペアを取り上げ、全体に広めていく。

(3) 学びに向かう力、人間性等

積極的に運動に取り組めるように、課題設定や学習形態、振り返りの工夫を行っていく。課題設定においては、前時までの活動と関連付けながら課題を設定する中で、本時のゴール像を明確に示していく。どのような活動をすれば課題を達成できるかを確認することで、児童が見通しをもつことができるようにし、愛好的な態度を育成していきたい。学習形態においては、単元前半では異質グループで共通課題を解決していく。単元後半は習得した知識や技能を活用し、個人の課題を解決していく学習となるため、等質のペアで学習を進め、協力して課題を解決していく態度を身に付けられるようにしていきたい。グループ、ペアの活動において互いを認め、称賛し合う時間を設けることで、肯定的な人間関係を形成したい。また、安全に配慮するために器械・器具の使い方、準備、片付けの仕方の指導を徹底し、安全を確かめながら活動する児童を称賛し、学級全体に安全への意識を高めていきたい。

5 単元の目標

- (1) 伸膝台上前転の行い方を理解するとともに、自己の力に合った場で、足を伸ばしたまま腰を高く保って着手し、前方に回転することができるようにする。 〈知識及び技能〉
- (2) 自己の能力に適した技の課題を見付け、課題の解決のための活動を選ぶとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 運動に積極的に取り組み、友達の考えを認め、協力して運動したり、安全に練習したりすることができるようにする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①跳び箱運動の行い方について言ったり、書いたりしている。 ②自己の能力に適した回転系の基本的な技が安定してできる。 ③回転系の発展技に取り組むことができる。	①自己の能力に適した課題を見付け、その解決のために練習の場や段階を選んでいる。 ②自分の課題に合った練習が分かり、技が上手になるコツなどを仲間に伝えている。	①跳び箱運動に積極的に取り組もうとしている。 ②きまりを守り、協力して器械・器具の準備・片付けをしたりしようとしている。 ③互いの動きを見合う中で、仲間の考えを認めようとしている。 ④場の危険を取り除き、試技開始前の安全を確かめている。

7 単元の計画

- (1) 領域の取り上げ方 (略)
- (2) 領域の内容と目指す動き

事例のポイント①  
 中学年から中心技を据え、系統性を踏まえた指導の計画を立てる。また、児童の実態に配慮し、取り上げる技を選択する。器械運動の特性である「できる楽しさ」を味わえるようにするとともに、安全面への配慮から、各学年で取り扱う中心技は原則一つとした。

学年	内容 (取り扱う中心技)	目指す動き
3	跳び箱運動 (開脚跳び)	・助走から両足で強く踏み切り、足を左右に開いて着手し、跳び越えて着地すること。
4	跳び箱運動 (台上前転)	・助走から両足で強く踏み切り、腰の位置を高く保って着手し、前方に回転して着地すること。
5	跳び箱運動 (かかえ込み跳び)	・助走から両足で強く踏み切り、足をかかえ込んで跳び越し、着地すること。
6	跳び箱運動 (伸膝台上前転) (首はね・頭はね跳び)	・助走から両足で強く踏み切り、足を伸ばしたまま腰の位置を高く保って着手し、前方に回転し、着地すること。 ・伸膝台上前転を行うように腰を上げ回転し、背中(頭頂部)がついたら腕と腰を伸ばして体を反らせ回転し、着地すること。

(3) 指導と評価の計画（8時間扱い） 本時は○印 3 / 8時

時間	1	2	③	4	5	6	7	8	
ねらい	学習の進め方を知り、安全に気を付けて協力して運動しよう。	伸膝台上前転と台上前転の違いを見付け、練習しよう。	膝をいつ伸ばせばよいか見付け、伸膝台上前転をもっと美しくしよう。	腰を高く保ち、技をもっと雄大にしよう。	自分の課題を見付け、課題を解決できる場を選ぼう。	自分の課題の解決に向かって練習に取り組み技を上達させよう。	技が上手になるポイントや技のできばえを仲間に伝えよう。	自分史上最高の演技をし、跳び箱オリンピックを楽しもう。	
指導内容	・学習の進め方・約束 ・グループ・ペアの編成 ・場の設定について ・試しの運動 ・安全指導	・伸膝台上前転の行い方 ・課題解決学習の進め方	・膝を伸ばすタイミング ・技の美しさ	・腰の高さ ・技の雄大さ	・自己の課題発見の仕方、解決に向けた練習方法・場の選択の仕方	・自己の課題解決のための練習の仕方 ・自分の課題を解決しようとする態度	・課題解決のための練習の仕方 ・できばえの伝え方	・自分に合った技での発表(伸膝台上前転) ・進んで運動に取り組む態度 ・友達を認める態度	
学習過程	1 集合、整列、健康観察、挨拶をする。 2 準備運動・補強運動（第2時：コンパス 第3時カエル倒立 第4時～カエルの足うちチャレンジ）をする。								
	3 単元の学習内容と本時のねらいを確認する。	3 感覚づくりの運動をする ①腰上げ ②跳び上がり・跳び下り・前転 4 前時の振り返り（ICT端末によるモデリング） 5 本時のねらいや学習内容の確認							
	4 学習の仕方や進め方に見通しをもつ。 ・単元を通して、どのように学習すればよいか見通しをもてるようにする。 ※1時間の流れ ※準備や片付けの方法 ※安全確認の仕方 ※ペア・グループ編成(3～4人) (事前技能調査によって教師が決めておく。)	6 ディスカバリータイムⅠを行う。 (共通の課題を解決する時間) (異質グループによる課題解決)			6 ディスカバリータイムⅡを行う。 (個人の課題を解決する時間) (個人・等質ペアによる課題解決)			6 伸膝台上前転のポイントを確認し、最終練習をする。	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・動きながら解決できるよう促していく。</li> <li>・②では思考ツール(ウェービングマップ)を使い、思考の履歴が残るようにしていく。</li> <li>・「体のどの部分を、どのようにするか」をグループや個人に声をかけ、運動のポイントやこつを引き出していく。</li> <li>・確認は全体で行い、技のポイントを押さえる。</li> <li>第2時・・・台上前転との違いは膝を伸ばすこと</li> <li>第3時・・・膝は踏切着後に伸ばすこと</li> <li>第4時・・・腰を高く保つことで技が雄大になること</li> <li>・全体で共有したことを生かしてパワーアップタイムで練習する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>7 (後半)オリエンテーション</li> <li>・課題の見付け方(モデリング)</li> <li>・第4時の映像(技能確認③)から課題を見付ける。</li> <li>・場の作り方やペアでの練習方法、ステップカードの使い方を知る。</li> <li>・頭はね跳びや首はね跳びの行い方を説明する。 (技能上位児童)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題は「膝の伸び」と「腰角の開き」の二つからの選択とする。</li> <li>・第5時の練習は個人の課題選択を認めながらも、適切な課題を選択できていない児童には、第7時に向け教師とともに修正する。</li> <li>・第6時に技能確認⑤を行う。</li> <li>・第7時は技能確認⑤から課題を修正する。</li> <li>・ステップアップカード(膝と腰)を用い、自己の能力に合った段階を選択できるようにする。</li> </ul>	
	5 試しの運動を行う。 ・感覚づくりの運動 ・開脚跳び・台上前転 <指導内容(復習)> ・力強い助走 ・技よっての着手の違い ・ディスカバリータイムの行い方 ・パワーアップタイムの行い方 ・チャレンジタイムの行い方	7 パワーアップタイムを行う。(学習内容を定着する時間)			7 チャレンジタイム 技能確認④			7 チャレンジタイム(技能確認) ・ICT端末で演技を記録する。	
		8 チャレンジタイム (本時の学習成果を確認する時間) ・1人1試技のみICT端末で動画撮影をする。 (技能確認①～③)			8 チャレンジタイム 技能確認④			8 チャレンジタイム(技能確認) ・ICT端末で演技を記録する。	
	6 振り返りをする。	9 (8) 振り返りをする(個人・グループ) 学習カード・グループボードをもとに成果・課題の整理							9 振り返りをする(個人・ペア) 学習カードをもとに成果・課題の整理
	7 本時のまとめをする。	10 (9) 本時のまとめをする。 11 (10) 用具の片付けをする。 12 (11) 整理運動、挨拶をする。							
	8 用具の片付けをする。								
	9 整理運動、挨拶をする。								
評価計画	知・技		①	②	②		②③		
	思・判・表					①		②	
	態	②④						①③	
	方法	観察	観察	観察・学習カード	観察・ICT端末	観察・学習カード	観察・ICT端末	観察・学習カード	観察・学習カード
場面	5	6, 9	6, 7	7, 8	7, 8	6, 7	6, 9	7, 9, 10	



【ステップアップカード】

事例のポイント②  
第2時では、前学年までに学習した台上前転から技をはじめ、技の系統性を押さえる。

事例のポイント②  
技の系統性を踏まえ、「はね跳び」の行い方に触れる。前時までの学習を押さえ、足全体のあおり動作や腕の突き放しについて中心に指導する。

## 8 本時の学習指導（本時3／8時）

(1) ねらい

- ・自己の能力に適した回転系の基本的な技が安定してできるようにする。 〈知識及び技能〉

(2) 準備（略）

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導 ◆評価規準）
導 入  8 分	<p>1 集合、整列、健康観察、挨拶をする。</p> <p>2 準備運動、補強運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備運動</li> <li>・補強運動 カエル倒立</li> <li>・場の準備</li> </ul> <div data-bbox="252 658 896 801" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント① 時間によって強度を上げ、技に必要な感覚を身に付けられるようにする。前時はコンパス、次時以降はカエルの足うちを行う、逆さ感覚、支持感覚を中心に組み込む。</p> </div> <p>3 感覚つくりの運動を行う。</p> <div data-bbox="236 869 609 967" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 助走からの腰上げ 2 腰砕けでの腰上げ3回 3 大きな前転</p> <p>口伴奏 2「トントン・こーし」×3 3「トントン・ケルンツ」</p> </div> <div data-bbox="236 981 513 1160"> </div> <div data-bbox="529 981 673 1146"> </div> <p>4 前時の振り返りを行う。 (映像によるモデリング)</p> <div data-bbox="300 1236 609 1451"> </div> <div data-bbox="226 1460 555 1550" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px;"> <p>編 P135 指導計画の作成の留意事項(2)</p> </div> <div data-bbox="657 1272 1129 1415" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント② ICT機器の活用により、学びの姿、本時のゴールの姿を具体的に示し、学習に見通しもち、意欲的に活動ができるようにする。</p> </div> <div data-bbox="699 1438 1168 1608" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント③ 「授業の輝き」と題し、めあてに沿って授業の振り返りが書いている児童の学習カードをモニターに映し出し、学び方のモデリングをする。</p> </div> <div data-bbox="1193 1258 1481 1608"> </div>	<p>○身なりを整え、挨拶をして、気持ちよく学習を始められるようにする。</p> <p>○見学者がいた場合は体調などを考慮し、参加の仕方を指示する。</p> <p>○一つ一つの動きを力いっぱい行っている児童を積極的に称賛し、全体に広めるようにする。</p> <p>○支持感覚、逆さ感覚を身に付けられるようにする。</p> <p>○前時の学習を生かし、協力したり、安全を確かめていたりする児童やグループを積極的に称賛していく。</p> <p>○伸膝台上前転に必要な感覚に絞り、口伴奏を用いながら左に示した運動を行う。</p> <p>○腰を高く上げている児童を積極的に称賛し、全体にその動きを広めていく。</p> <p>○「○○の動きが△△の動きにつながっていくね。」のように、感覚つくりの運動が主運動につながっていくことを意識できるような言葉がけを行っていく。</p> <p>○感覚つくりの運動が終わったグループから、前時に学習した伸膝台上前転や台上前転を行うよう指示する。</p> <p>○前時のねらいである「膝を伸ばす」姿を再度映像で確認する。</p> <p>○活発にディスカバリータイムを行っていたグループを紹介し、称賛する。</p>
	<p>5 本時のねらいと学習内容の確認をする。</p> <div data-bbox="363 1662 667 1863"> </div> <div data-bbox="331 1877 1391 1944" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ひざをいつ伸ばせばよいか見付け、しんしつ台上前転をもっと美しくしよう</p> </div> <div data-bbox="242 1966 641 2078" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A 助走からひざを伸ばす B ふみきり直後から膝を伸ばす C 回転し始めたからひざを伸ばす</p> </div>	<p>○「美しさ」については児童の感想やオリンピックと関連付けて提示し、意識を向けられるようにする。</p> <p>○前時の学習を受け、児童の声を大切にしながら本時のねらいを定めていく。</p> <p>○本時のゴールの姿、ゴールに向かうための方法（学習内容）を明確に伝え、教師が行う評価についても児童と共有できるようにする。</p> <p>○クイズ形式にすることで、意欲をもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>○本時は膝を伸ばすタイミングを見付けることが美しい伸膝台上前転につながっていくことを確認する。</p> <p>○A、B、Cの動きを試しながら、ポイントを理解できるようにする。</p>

6 ディスカバリータイム I を行う。  
(課題を解決していく時間)



・全体で確認をする。

7 パワーアップタイムを行う。  
(学習内容を定着する時間)



編 P134 指導計画の  
作成の留意事項(1)

8 チャレンジタイムを行う。  
(本時の学習成果を確認する時間)



【ICT 端末の活用】



○活動しながら考えを深めていくことを確認するとともに、思考の履歴はグループボードに残しておくようにする。

◆自己の能力に適した回転系の基本的な技が安定してできる。  
(観察、学習カード)【知識・技能】

△努力を要すると判断される状況 (C) の児童への手立て

- ・マットを数枚重ねた場や、低く設置した跳び箱で腰を上げたり、速さのある前転をしたりする。
  - ・回転をしながら膝が伸びる動きを、教師の補助により行う。
- ◎十分満足できると判断される状況 (A) の児童の具体的な姿
- ・つま先まで意識を向け、伸膝台上前転を行っている。

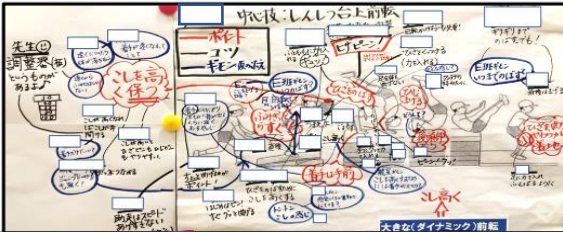
○膝が踏切直後に伸びている児童の試技を見ることで、「膝を踏切直後に伸ばすこと」を全体で確認する。

○合格基準(どのようになったらできたか)を示し、積極的に運動に取り組めるようにしていく。

○ペアで技を見る視点を明確に示す。

○技能が向上した児童を適宜取り上げ、本時のめあてと関連付けていく。

赤字=ポイント、黒字=コツ、青字=疑問、仮の答え



【場の工夫】

事例のポイント②

自分ができる場で「本時のめあて」が達成できるようにした。本時の学習内容は「踏切直後に膝を伸ばして回転することから、写真のような場でできたことも認め、運動が苦手な児童の意欲を低下させないようにした。



整

理

7

分

9 振り返りをする。

第3時 ねらい 技を美しくするためにはいつ膝をのびせよいかタイミングとコツを見つけよう  
しんしつ台上前転のひざは、.....伸ばす  
とよい、コツは、.....



【学習カード】

○振り返り用紙は穴埋め記述とすることで、本時のねらいと正対できるようにする。(左図参照)

○本時のねらいに沿った内容を記入している児童を指名する。

第3時 ねらい 技を美しくするためにはいつ膝をのびせよいかタイミングとコツを見つけよう  
しんしつ台上前転の ひざを伸ばすタイミングは  
①ひざを伸ばすタイミングは.....伸ばす  
とよい、コツは、.....  
.....



○本時のねらいを意識できるように、技のポイントである「膝を伸ばすタイミングは踏み切り直後から」を全体で再度確認する。

○「どのように伸ばすか」についてのこつは、個々の運動感覚を認め、実際の動きを見ながら共有する。

○児童の感想を生かしながら、運動のこつを「見付ける」楽しさ、「できるようになる」楽しさを学級全体で共有する。

○安全に気を付け、協力しながら片付けを行っているグループを称賛し学級全体の安全への意識を高めていく。

○呼吸を整えながら全身をほぐせるよう、落ち着いた雰囲気ですっきりと整理運動を行えるようにする。

○次時は、伸膝台上前転を雄大にしていくことが学習の課題であると伝えられるとともに、落ち着いて学習を終えられるようにする。